

神戸 YWCA 夜回り準備会（仮）

ニュースレター2019

活動報告書 vol.14

2019年3月発行

はじめに



森脇 梓

2018年は個人的な事情で例年よりも夜回りに参加することができず、メンバーに頼りっぱなしの1年でした。そのため、夜回りの近況を把握しきれていないところがございますが、社会の動きと絡めて、この1年に感じたことを振り返りたいと思います。

2018年は災害が相次ぎ、各地に甚大な被害をもたらしました。過去に阪神淡路大震災が起こったときに、野宿されていた方が避難所に入ってもらえないという事態が発生しました。昨今の災害時に同様の事態が発生したかは定かではありませんが、今後も十分起こりうると考えられます。誰もが等しく、安全な場所で身を守る権利があります。今一度、災害時における差別について考えをめぐらす必要があるでしょう。

12月には、新しい在留資格を創設した出入国管理法が成立しました。この改正に関しては、あまりにも問題点が多く、議論をし始めるときりがないので議論をしたくないと、与党側が本音を漏らすほどでした。従来の外国人技能実習制度の規制を緩和して外国人の受け入れを拡大し、人手不足の解消に資するとされていますが、そもそも、法案を審議するうえで重要となる、政府が提出したデータ自体に誤りがあり、信憑性に乏しく、法案の中身も対象となる業種が明確でない、受け入れの規模や人数すら定められていないなどの欠陥をはらんだずさんなものです。このような状態で外国人の受け入れを拡大すれば、問題が発生することは火を見るより明らかです。何より、外国人技能実習生が置かれている現状は過酷で劣悪であり、それらへの対策を講じないまま受け入れを拡大する点が問題です。さらに問題は技能実習生だけにとどまらず、日本人労働者へも波及すると考えられます。たださえ、非正規労働者が増加し、低賃金のはびこっている

にもかかわらず、さらなる賃金低下を招く恐れがあります。

厚生労働省の目視調査によると、ホームレス状態の人は全国で5千人ほどとされています。2003年の調査では2万5千人であったため、かなり減っています。減少した理由は、生活保護の利用が進んだためと考えられています。しかし、その一方で、ネットカフェやカプセルホテルなどで寝泊まりしている、「見えない」ホームレス状態の人は増加傾向にあります。背景にあるのは非正規雇用の増加です。安定した仕事に就けず、仕事を失えば、同時に住む場所も失ってしまう人は少なくありません。

2019年4月からは働き方改革関連法が実施されます。時間外労働に上限が設けられる、使用者は従業員に有給休暇を5日以上与えなければならないなど、労働者を保護する方向にシフトしています。これだけで長時間の時間外労働が是正されるとは言い切れませんが、抑止力としては一定の効果を挙げるでしょう。

働きたい人がやりがいをもって人間らしく働けることと、働けない人が負い目を感じずに安心して暮らせることが両立する社会が理想だと思います。「働かざる者食うべからず」という言葉があります。本来は、働く能力があるのに働こうとしない人へ向けられた言葉だそうですが、現在では、様々な事情で働きたくても働けない人へも向けられているように感じます。弱い立場にいる人へのまなざしが冷たい、分断された社会では、結局誰も幸せになれないでしょう。「自分さえよければいい」「あの人は自分とは違う」と考えるのではなく、自分も、自分とは違うあの人も生きやすい世の中を作っていくことを考えていかなければならないと思います。

活 動 報 告

野々村 耀

1. 夜回り

夜回りは従来通り神戸市の東部（東灘区・灘区）の公園などで野宿している人を毎月二回（第二・第四土曜）の夜に訪問しています。三宮など市の中心部はカトリック大阪大司教区の社会活動神戸センターが夜回りしています。（1995年の震災救援活動のエリアからそうになりました）訪問し、飲み物（お湯を魔法瓶で持参し、その場でコーヒーや紅茶、緑茶などを淹れます。夏には、希望があれば冷たいもの）、おにぎり（夜回り前に作ったもの）あるいはパン（障がい福祉作業所ほっとすてーしょんのもの）、夏は蚊取り線香、冬はカイロなどを届け、夏が過ぎると必要な方に毛布・温かい服を届けます。台風の後、あるいはいやがらせで毛布が濡らされたときなどにも、届けます。季節に関係なく服や靴などを届けることもあります。＜物の関係＞にならないように願っています。大切にしているのは会うことです。顔を見合い、元気か、困っていることはないかたずねます。体調がよくない、暮らしが成り立たない、などの場合、病院にかかる手立てを講じたり、生活保護を受けられるように手伝います。それは昼回りと呼んでいます。子供が襲撃した時には教育委員会や学校に相談します。大人の場合はむづかしい。対応に苦慮しています。追い立て、行政による時は、話し合いを申し入れますが、個人だとわからないことが多い。この期間に、追い立ては二回ありました。「この物件はXX日までに撤去してください。しない場合は市が処分します」という赤い紙を張られて、そこにいた人はいなくなりました。最近になって再会したので、「物さえ処分すれば無理に移動しなくてもいい」と話したところ、「3人の人に移動しろと言われた。以前、裸にされて殴られたことがあるから逆らえない」とのことでした。もう一つのケースは警官に「近隣住民が苦情を言っている」から移動するように言われたものです。

●襲撃は4回ありました。エアガンで撃たれた、とBB弾を見せてもらったケースや、実際の襲撃はなかったのですが、20代の大人、大学生、高校生くらいの数人に脅されたり、エアガンで撃つたろかと言われたことがありました。

●現在、夜回りで困っているのは、メンバーが仕事

が忙しくて、毎回参加できる人がほとんどおらず、運転できる人もなかなか参加できないことです。

活動の状況(2017年8月～2018年12月)(内は前年)

	最多	最少	合計	平均
参加者数	6 (4)	2 (2)	106 (81)	3.1 (3.3)
訪問先	5 (6)	2 (3)	91 (111)	2.7 (5.2)
会った人	3 (4)	2 (2)	69 (78)	2.0 (3.3)

※ただし統計期間を変更したため、前年は24回分の統計であるが、今回は34回分の統計である。

2. 病院訪問

いまは、毎週の定期的訪問は休んでいます。知った人が入院したときだけ訪問しています。

3. 昼回り

生活保護申請など福祉事務所・病院への同行は、今期は希望者がいませんでした。時々ネットや電話で、「ネットカフェでくらしていたが金が尽きたので今夜寝るところがない」とか、「相談があるから連絡ください」といった相談があります。生活保護を受けるようになった人からも時々、福祉事務所・ケースワーカーの扱いに対する不服を聞きます。体調がよくないのに、働けと言われる。年金を受けられる年になったが、手続きをしてくれるといったのにしてくれなかった、などの声です。

4. ミーティング

2018年3月まで毎月一回おこなってきましたが、それ以降は集まるのが困難になり、3回（代表変更・「冬の家」準備など）だけ行いました。

5. 越年について

これまで報告したことがなかったのですが紙幅に余裕がありそうなので、神戸の越年活動について書いておきます。

1995年の阪神淡路大震災のとき、神戸では様々な被災者支援の活動が行われましたが、神戸市は避難所を早く終わらせようと、被災者に圧力を掛けました。震災以前から野宿していた人は救援対象になり

ませんでした。物資や食料がもらえない。避難所に入れてもらえなかったり、入っていても、神戸市が「不適格者」として追い出そうとしたり、出ないと、みんなに配られる弁当を配らなかったり、ボランティアが「うちの避難所にはホームレスはおらん」と自慢するような中で、野宿者支援も必要だと考えるグループが出てきました。1995年9月、国内法では被災者支援が十分できないと考えた人たちが国連の居住権 NGO を調査に招き、秋には、「神戸の冬を考える会」がつけられました。＜夏になっても、秋になっても神戸は冬＞だからです。被災者・野宿者を問わず生活に困っている人の問題を考えたいと議論しているうちに冬が近づき、市役所のそばの東遊園地に相談テントを出すことになりました。

12月末のある晩、公園にテントを建てると、翌朝すぐに市の公園管理の職員が撤去しろと言いに来ました。なぜか、と問うと、「芝生が傷むから」だという答え。「人間が傷んでいる」と議論になり、市の職員に、今夜寝るところもない人はどうすればいいの дай いうと、市の更生センターに行け、というので、更生センターは「一杯だから入れてくれない」と言い返しました。職員はまさかと思って、センターに問い合わせ、事実だと知って、1月初めまでの許可をくれました。はじめは、「相談」だけのつもりだったのが、すぐに「炊き出し」が始まり、支援者は小さなテントに泊って物資の番をしていたら、「みんなで寝よう」ということになって、「宿泊テント」ができました。毎晩、共同生活について議論し、KJ法を使って、数人ずつのグループで話し合い、次第次第に、更生センターの定員を増やしてほしい、病気の人が医者にかかれるように、生活保護を受けられるようにと言った要求がまとまり、神戸市の保健福祉局（当時は民生局）と話し合っ て、すべての項目が妥結して、27日間の「神戸冬の家」の越年活動が終わりました。年末年始の、仕事がなく相談する役所も閉まっている時期を、助け合っ て乗り切ろうというのは、日雇い労働者（労働組合）の長年の知恵です。被災地支援に駆け付けた人の中に釜ヶ崎の労働者もいて、こういう活動ができました。リーマンショック後の年越し派遣村を先取りした活動です。

その後、毎月一度集まっ て一緒に飯を食い、議論し、神戸市との交渉も続けることになりました。毎回30人ほどが集まりました。

1996年春に「神戸の冬を支える会」と名乗るようになり、職員を置いて活動を続けてきました。神戸YWCAも最初から、一員として活動を支えてきまし

たが、神戸の冬を支える会が組織化され、NPOになっ てからは関連団体くらいの距離になっています。

月に一度の話し合いと食事の会は、97年頃から参加者が急増し、食事中心になりました。今はカトリックの社会活動神戸センターが毎週三回炊き出しを継続する形になっています。毎冬、12月28日から1月4日頃まで、休庁期に「神戸の冬を支える会」を中心に実行委員会が「冬の家」を継続しています。よろず相談、医療相談、法律相談などのテントができ、散髪もでき、毎日、いくつかの団体が炊き出しを担当します。神戸YWCA夜回り準備会も最初から一日を担当してきました。夜回りのメンバーだけでなく神戸YWCAのメンバーや熟年者ユニオンの有志も手伝ってくれています。

2018年は労働環境が激変する年でした。「働き方改革」という名の「働かせ方改革」と外国人労働者の導入は非常に危険に思えます。巻頭の森脇さんの記事をご覧ください。

越年炊き出しの様子



カナダ滞在記

藤原 尚樹



「入国審査はどこですか」。トロントの空港に着いて、わたしは戸惑っていた。いままで行った国では厳格な入国審査があったからだ。審査で待たされることも多々あった。しかし、トロントでは審査がなかった。というのも、すでに乗り継ぎのバンクーバーで入国に関する入力を終えていたからだった。それに気づいたのは、空港で右往左往した後だった。とても恥ずかしかった。何してんだ、こいつと見られていたと思う。そんな簡単な入力だけで入国できるとは思っていなかった。空港の中を見渡すと世界中からトロントに降り立った人たちでごった返していた。重い荷物を持ちながら動き回った末に疲れ果て、休憩所のベンチに座ると、隣にいた女性たちがフィリピン語で会話をしていた。フィリピンから来た空港の清掃員だった。入国審査も厳格ではないし、いろいろな人たちに開かれた理想の国だな（・・・いや、これ国なのか）と疲れ果てた頭でふと思ったが、現実とは違った。

ある日、友人たちで行ったパブで隣に座ったカナダ東部出身の友人に疑問に思っていたことを尋ねてみた。それは、カナダにナショナリズムがあるのか、という疑問だった。日本にいと、北方領土や尖閣諸島などの領土問題を口実に保守の政治家たちがナショナリズムを煽る。正直言って、聞くに堪えない。うんざりする。一方のカナダはアメリカと国境線を接するだけでアメリカとは友好関係にある。こんなたくさんの人が行き交うなかでナショナリズムなんであるのか。彼の答えは、「ある」だった。でも、どうやって？ 答えは「人道主義だよ」。彼によると、小学校の頃からなにかと人道主義に関する授業を受ける。カナダは世界中の困っている人たちを支援し、受けいれているすばらしい国だ、と。確かにそうだ。

鎖国大国日本なんて比較にならない。最近では他国に供与する政府開発援助も日本の国益重視。ただし彼の話には続きがあった。「でも、彼らが入国した後はほとんどなにもしない」。彼の話には腑に落ちるものがあった。というのは、トロントの街中で路上生活を送る人たちをよく見かけるからだった。夏休みに入った大学の食堂で寝泊まりする人たちも数人いた。ショッピングモールや駅に向かう通路にはいつも「Help me」と書いたボードを持っている人が座り込んでいた。街中を歩いているときも、家までの交通費をくれないかと話しかけられ、喫茶店でコーヒーを飲んでいると喫茶店にいる一人ひとりにお金を求めている男性を目にしたこともある。理想の国カナダとは違う、そこには他の国と変わらぬ現実の社会があった。

帰国前、大学で知り合った日本人の方がトロント市内を案内してくれた。彼女自身は今年からカナダの大学院に進み、子ども2人はそれぞれ現地の小学校と中学校に通う。トロントでの滞在歴も長かった。案内してもらった場所は都市中心部で、いま住人の立ち退きが進んでいる地区。トロントの都市再開発はすさまじい勢いで進んでいる。家賃は高騰し続け、物価も高い。トロントの時給は日本円で約1400円と聞いたが、それでも家賃は高いと思う。大学で知り合った博士課程の学生は、授業補助の仕事で月17万円ほど稼ぐ。しかし、彼が住む大学敷地内のマンションの家賃は月11万円也！ えっ、給料の3分の2が家賃に消える・・・。「そうだ」と彼は笑う。そして言う。「やってられない」。

話を戻すと、彼女に案内してもらった都市再開発の現場でも家賃や立ち退きが問題になっていた。そこは主に移民や難民としてカナダに渡ってきた人

たちが暮らす地区で、現在は政府の都市再開発の対象となっている。開発の対象となっているマンションの一階で出会ったフィリピン人女性によると、そのマンションの住人の8割近くをフィリピン出身者が占めるという。10年前は家賃が約8万円だったが、いまは20万円近く払わなければならない。でも開発の対象になったから、多くの人が近くのシェルターに移ったという。

人道主義という「すばらしい言葉」の裏側にある現実。支援すること一されることがつくりだす関係。移住後の自己責任。いままでトロントで起きたことがない排外主義、移民排斥の極右の運動もわたしが帰国する数週間前にあったと聞いた。去年の6月に誕生したトロント市長は考え方がトランプそっくり。

考えることはしんどいけど、ユーモアと皮肉を交えながら考えるとしんどさよりも楽しさと希望が見えてくる。とりあえず、最近印象に残った新聞記事から考えてみたい。2018年に世界で最も裕福な26人が所有する総資産と経済的に恵まれない世界人口の下位半分の約38億人が所有する総資産が同じ・・・26人の総資産＝3,800,000,000人の総資産。稼いだ分はわたしのものだ。言い分はわかる。確かにそうだ。それは私的所有を守るための大切な「人権」のうちのひとつかもしれない。けれど、歯止めがかからないその「人権」はどこまで守られるべきなのか。だれかが求める欲望の自由を守る「人権」は、だれかが求めるささやかな自由を守るための人権を奪い続けている。ちなみに、2018年の世界人口は約76億人だそうです。

鹿児島市での炊き出しに参加して

堀部 碧

縁あって鹿児島生活を始めて2度目の年末年始、鹿児島での越冬炊き出し活動に参加させていただく機会を得たので、その報告をしたいと思います。

鹿児島市でのホームレス支援についてや対象者の詳細は「かごしまホームレス生活者支えあう会」さん_ <https://www.facebook.com/sasaeau.k/> などが発信する情報をご確認いただきたいと思います。鹿児島市での支援活動としてはほぼ毎日何らかの団体がおにぎり配りや電話相談をしており、また支援団体を通じての生活保護申請は通りやすく、比較的行政が協力的な印象です。

私が参加したのは12月31日と1月1日に実施された越冬炊き出しで、これは2004年から13年連続で実施しているとのこと。様々な支援団体の方や、市議会や県議会の議員さん方でホームレス支援に関心を寄せる方たち、市議会議員さんの事務所でインターンをされている学生さんなどが集まって、大晦日には年越しそば、元日にはお雑煮を作って、訪れた数十人の方たちに振る舞いました。

鹿児島での越冬は、ここ数年は県議会議員さんの紹介で鹿児島県教育会館を会場としており、温かい屋内でゆっくりと食事や会話を楽しむことができます。また31日も1日も、楽器や歌といった特技を持っておられる方が参加し、みんなで歌って踊って楽しむ時間がありました。

神戸での越年との比較で言うと、ここ鹿児島での「越冬炊き出し」は議員さんの参加や関わりが大きいなと感じたこと、そして女性が多いということです。配膳のとき、ある支援者の男性が「男だけ配っているの？」と発言すると、「何言ってるの、あたりまえでしょ！」と何人もの女性たちが声をそろえて指摘するという環境は、「女性」としては活動しやすいなと思いました。

個人的には、まだまだ知らない鹿児島の「面白い活動をしている人」につながれるきっかけにもなったことがとてもよい収穫でした。



参 加 者 の 声



心配でたまらない

野々村 耀



やめたい。夜回りなんかやめたい。誰も野宿しなくなったら、夜回りは必要ない。そうなったら、なにをしようか？ 詩を書くか、歌を歌うか？ でも、まだ、気になる。Iさんは元気だろうか？ Fさんもずいぶん弱ってきた。誰の世話にもならない（だからおにぎりなんかいらない）と言い張っていた人が受け取ってくれたら、何となく心配になる。

もう、公園で会う人が減ってきた。なにしろ、人が休めるような場所ではなくなってきた。茂みや、もの陰のように、身を隠せる場所ではなくなってきた。石で覆われた、冷たく、風を遮ることができない。休みたいと思っても、ベンチには変な仕切りがあって、横になれない。私たちの（町の）意地悪さが、ひしひしと伝わってくる。

たやすく外で寝られなくなった代わりに、安宿より安く夜を過ごせる場所が増えてきた。マンガ喫茶、ネットカフェ、24時間営業の温泉。そういう場所に泊まる金もなくなれば、途方に暮れるしかない。時々、ネットカフェに泊まっていたがお金が尽きた。今夜泊るところもないという電話がかかってきたりする。非正規で働いていたら、簡単に解雇され、仕事と同時に住まいも失う。いまは東北の復興、オリンピックなどでまだ仕事があるようだが、その後どうなるだろう。2018年はこれまでにない速さで

次々と労働に関する法律が変わり、労働者の立場はどんどん危うくなってきた。2019年からは外国人労働者が増えそうだが、その人たちの人権は守られるだろうか。安く働かせ、使い捨てにしようとしている。トランプの城のように崩れるのを見るのはつらい。

などと思こうと思っていたが、今年になって、毎月勤労統計が正しくないことが明らかになった。勤労統計だけでなくほかの統計も疑われる。これまでも、政府がいろいろ隠し事をして（例えば「モリカケ」）信用ならないとは思ってきたが、統計まで不正だと、影響は計り知れない。

太平洋戦争の時、開戦から半年でミッドウェーの海戦があり、負けはじめた。しかし政府は「勝った」と発表し、マスコミ（新聞・ラジオ）も「勝った」と報道し、多くの、ほとんどの「国民」はそれに乗せられて「勝った勝った」と喜んで、疑うことを知らなかった。この構造がおそろしい。何が起こっても、政府が「そんなことはない」「問題ない」と言えば、多くの人が「政府のいう通りだ」と声を合わせる。フェイクな土台の上に築かれたものは崩壊するしかない。



～夜回り活動に参加して～ 牛江真由子

家がない人を助けずそのままにしておける社会への疑問と、他人事ではない（自分もホームレスになるのではないか）というような気がしてホームレス問題に興味を持っていたところ、たまたま見つけたのが夜回り準備会（仮）での活動だった。なんとなく、大掛かりな慈善活動のように考えていた私は、最初の数回で拍子抜けしてしまった。夜回りで出会う人たちが私のイメージとはかけ離れて、とても普通だったからである。私と那些人たちとの違いは、家があるかないか、それだけのように思えた。今は、一人暮らしの知り合いが心配で定期的に安否確認に行く、それぐらいの心持ちで夜回りに参加している。

夜回りの活動では、いろんなことを考えさせられる。ある時、夜回りで訪問しているホームレスの人が、高校生ぐらいのグループから攻撃を受けたことがあった。「みんなの公園で勝手に陣取るのは良くない」と憤る気持ちも分からなくはないが、そこで取って攻撃したくなる心理とは一体何なのだろう。その子たちの考えを知りたいと思った。そのほか、公園などに設置してあるベンチにやたらとひじ掛けが増えているのは、ホームレスの人がそこで横にならないようにという意図もあると聞き、公園でベンチに座る機会がほぼない私には下手すると一生気が付かない話だと思い、とても興味深く感じた。

この社会には、自分にはたまたま関係がなかったために気が付かなかった「おかしいこと」が他にもいろいろあるのではないだろうか。これからもっといろんなことを知り、考えていきたいと思っている。



～夜回り活動感想～ 春尾久美子

友人から、路上で生活している人への見回りなどをする活動があると聞き、参加させてもらうよう頼みました。初回は活動内容の説明と兼ねて面接もあると知り、断られるかなと少し不安もありました。当日は活動の始まり・活動内容・スケジュールや参加者のお話を聞かせてもらい、暫くしてから手渡し飲み物やおにぎりなどの準備をして出発しました。最初、夜回りと聞いて思っていたのは、大勢の人達に、グループ毎に分かれたスタッフが、食事や必要な物品を手渡しイメージがありましたが、実際には数人で、大体把握している何箇所かを回り、訪ね、雑談をしながら近況や体調・仕事の話などを伺い、話し終えてから、食料やそれぞれ必要とされている物品を渡していきました。

いつもは、公園などで生活している人を横目で見ながら、寝袋や布団に包まっていたら、冬場は寒くて大変だろうなとか、夏は暑いだろうなとか思わず足早に素通りしていました。

でもこうやって、ひとりひとりと目線に合わせてお話ししていると、普段は感じない、ゆったりとした時間が流れていました。そして同じ場所で日中ずっと過ごすだけでなく、自分と同じように仕事に出掛け、終わると帰って来る一日を過ごす人もおられるのを知りました。

昨年からまだ数回だけの訪問で、暮れの炊き出しも参加する事が出来ず、なにもお手伝いできなかった。まだまだ表面的な事しか分かかっていませんが、少しずつでもお手伝いしていければと思っています。

会計報告

(自: 2017年4月1日 至: 2018年3月31日)

収入の部

項目	金額 (円)	備考
寄付金	138,000	
助成金	85,000	
合計	223,000	

支出の部

項目	金額 (円)	備考
物品費	57,446	炊出し食材費 (越冬)、夜回り消耗品
印刷製本費	9,730	活動報告書印刷費
通信費	9,267	報告書発送費、切手代
支払寄付金	30,000	越冬越冬活動協賛費
管理費	114,653	分室維持管理・人件費
その他	1,904	振込手数料
合計	223,000	

寄附・寄贈報告

(自: 2018年3月1日 至: 2019年2月28日、敬称略)

東昌宏 井上瑛子 井上みち子 岩崎滋 梅沢昌子 小倉寛
掛橋智佳子 片山恵 川辺比呂子 後藤安子 小西達也
斎木彰 下川潤 鄭秀珠・下田隆清・由楽 高橋智子
辰巳幸治 田平正子 中島昭子 内藤進夫 長澤毅
西島明子 西山秀樹 二宮百合子 西山和宏 野々村耀
宮地京子 森原寄指子 森安広之 山本容子 吉田英三
米岡史之 匿名 日本基督教団神戸栄光教会社会委員会
NPO 法人フリーヘルプ

山本容子さん、宮地京子さんには毎月おにぎりを作っていました。松下公人さん、寺内真子さん、正木紀通さんにはメンバーで車を動かせないとき、運転をしていただきました。

※ 多くの方からカンパ、毛布、衣類、靴、リングなどを頂きました。感謝して活動に使わせていただきました。ありがとうございます。

※ 万一、お名前の漏れや間違いがありましたら、ご一報いただけるとありがたいです。

神戸YWCA夜回り準備会 (仮) ニュースレター2019 活動報告書 vol.14

発行: 神戸YWCA夜回り準備会 (仮)

発行日: 2019年3月31日

編集: 梅沢昌子 野々村耀 細田梨恵 森脇梓

神戸YWCA 夜回り準備会

e-mail: yomawari@kobe.ywca.or.jp

公益財団法人 神戸YWCA

本館 〒651-0093 神戸市中央区二宮町 1-12-10

tel. 078-231-6201 fax. 078-231-6692

e-mail: office@kobe.ywca.or.jp www.kobe.ywca.or.jp

分室 〒651-0063 神戸市中央区坂口通 5-2-16

tel. & fax. 078-221-5111 e-mail: bunshitsu@kobe.ywca.or.jp

今回の報告書は、「2018年度 NHK 歳末助け合い義援金」の助成を受けて作成しました。

参加者募集: 月2回 (毎月第2・第4土曜日 18時〜) 活動しています。特にドライバーを担当いただける方、歓迎です。

カンパ募集: 備考欄に「夜回り準備会 (仮) の活動のために」と記入の上、下記の神戸YWCAの口座までお振込みください。

郵便振替口座 01100-0-10298 公益財団法人神戸YWCA
三井住友銀行 三宮支店 普通 1015232 公益財団法人神戸YWCA

YWCA

(ワイ・ダブリュー・シー・エー
Young Women's Christian Association) は...

キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。